

⇨ 期末在庫と利益の関係

Q : 在庫の額が利益に影響すると聞きますが、どういうことですか？

A : 期末棚卸高が多いと利益も多く計上されます。

【解説】

企業会計では、費用の計上は発生主義によるものとされており、また、費用の計上基準については収益対応の原則によることとされています。

したがって、費用である売上原価は、商品や製品の販売による収益の実現に対応する直接間接の原価を計算して求めるというのが原則となっています。

しかし、取引が多い企業にとっては、こうした売上原価を直接把握することが困難であり、また不適當であることから、次の算式によって求めた額を売上原価の総額として算定することとされています。

売上原価 = 期首棚卸高(在庫) + 当期仕入高 - 期末棚卸高(在庫)

このように、売上原価は、期首の在庫に当期の仕入金額を加算して、そこから期末の在庫を差し引いて求めるのですが、このうち、期首の在庫と当期の仕入高というのはすでに客観的なものとして金額が確定していますので、期末の在庫の評価が売上原価を確定させるというわけです。つまり、期末在庫の金額が変われば、売上原価の額も変わるということですが、計算上、在庫の評価が高ければ利益は多く計上され、少ない場合は利益も少なく計上されることとなります。

